

「一般向きの分かり易い本」を求めて

橋本 均*

先日、同僚から「何か、土壌のことを分かり易く書いた一般向けの本はないか」と聞かれた。それ来た、と私は思った。専門的な内容を一般人向けに簡潔に分かり易く書く…永遠のテーマである。私の知っている限り、土壌学全般を一般向けに分かり易く書いた本はない。農家向けに易しく書いたもの、漫画風にしたものなど、様々な工夫をした本が出版されており、それなりに分かり易いのだが、オーソドックスなものはない。

現在私は、土肥学会土壌教育委員会の一員として、一般市民向けの土壌観察会のテキスト作りに関わっている。現在の版は既存の調査ハンドブック等をベースとしたもので、図や写真が少なく、表や記述も難しい。そこで「一般向けの分かり易い」ものを作成しようということになった。全国各地の「自然観察の森」で、森林土壌を観察する際に使うもので、主に断面観察の方法と簡単な化学実験法の紹介が主であり、土壌学全般の解説が目的ではない。しかし、なかなか難しい。

ここで、実際に難しいと感じるのは、難しいことをより易く、分かり易く書くという本来の意味での難しさを別にしても、①そもそも用語、定義が曖昧なためどのように説明するか迷う、②写真や模式図を使う方が分かり易いが、なかなか良いものがない、③化学、物理の記号や単位を使用する場合、我々が考える以上に一般人は(中学や高校で習ったはずではあるが)知識がない、等である。

具体的には、①については、例えば、斑紋や土壌構造の名称やその説明が調査マニュアル、あるいは調査者により異なる。②については、斑紋や土壌構造の分かり易い写真、図がない。写真よりも精巧に描かれた模式図の方が分かり易いのだが、至難の業である。ちなみに、ミュッケンハウゼンの「土壌の生成・性質と分類」に載っている土壌断面の図は、写真よりも分かり易い、すばらしい図の一例である。③については、例えば、土壌の性質や養分の単位に数多くの種類があり、かつ、従来系とSI単位系が入り乱れている。元素の単体表示と酸

化物表示も入り乱れており、これらの違いをなかなか分かってもらえない。

私としては特に、写真や模式図が重要なテーマだと思っている。元来、難しいことを易く書く能力が低いため、なおさらそう感じるのかも知れない。また、現在は長い文章は嫌われる。学校の先生ですらそうらしい。今回は、分かり易い模式図を求めて多くの本を見てみたが、同じ図が引用されていることが多く、まだまだ工夫の余地があると思われた。

そこで提案がある。学会の将来のために、土壌の大切さを多くの一般市民、児童・生徒に啓蒙するために、学会で、「一般向きの分かり易い説明のための模式図または写真」のコンクールをやってみてはどうだろうか。例えば、土壌構造、土壌の保水能、コンシステンシーなど。さらには、一般向けの易しい観察会テキスト、ハンドブック、学校向けの易しい実験法、あるいは、高校生向けのテキスト、実験マニュアルでも良い。

突飛な提案かもしれないが、国民の理系離れが進行し、また、農業試験研究に対して風当たりが強いご時世に、ちょっと研究から離れて、土壌学の広報・啓蒙をもっと組織的に考え、対応する必要があるのではないだろうか。例えば、土壌関係の学会が連携してそういう場を作り、組織的に出版、インターネット等による広報活動、あるいは学校現場との連携を行っていく。そういう時代になってきたようだ。

話が少しそれてきたようだ。先述した観察会用テキストはしかし、あまり易しいものは出来そうにない。私なりに、若干のオリジナル写真や模式図を作成したが、所詮、低レベルの泥縄的なものである。それでも今は、デジカメやスキャナー、お絵かきソフトなど便利な小道具が一杯ある。最近の学会発表を見ても、非常にきれいで分かり易い図表が出されている。皆さん、今後を期待しております。

受稿年月日：2006年5月17日

受理年月日：2006年5月17日